

## 出来る間に……

野瀬 隆平

ここ数年、海外はおろか国内旅行もままならない。

しかし、自由を得た定年退職後の何年かは、頻繁に旅をしていたことが、旅の資料を整理して判った。特に、今から 20 年近く前の 2003 年には一年間で海外旅行 2 回、国内の旅をなんと 9 回も行ってた記録を見て、我ながら驚いた。2 月には流氷を見に北海道へ、10 月には裏磐梯・南会津へといった具合である。

最も印象に残る旅は、5 月の地中海クルーズだ。アリタリアでかつて住んでいた懐かしのミラノへ飛び、ジェノヴァで 6 万トンに近い大型の客船に乗船。シシリー島やマヨルカ島などを巡り、バルセロナとマルセイユにも立ち寄るといふ盛りだくさんの船旅であった。

もう一つの海外旅行は、写真撮影の仲間との、カナディアン・ロッキーへの旅である。

こんな旅行に明け暮れる生活で、良いのだろうかと反省したのかどうか、翌 2004 年 1 月に OB ペンクラブに、ある人の紹介で入った。

仲間と共に、文章を書く楽しみを見つけ出し、別の世界が開きかけたと思った途端、胃に癌が見つかった。それまで遊び過ぎた罰があたったのかも知れない。手術しておよそ一か月入院した。

次の年からクラブでの活動も再開し、旅行も前と同じようなペースですることになってしまった。いつまた健康を損ね、自由に動き回れなくなるかもと思ったからだ。

あの東日本大震災が起きた 2011 年は、ポルトガルへのツアーに参加。ブサコという小さな街にある宮殿ホテルに滞在中に、現地のテレビが日本での大地震を大きく報じているのを見てびっくり。と同時に日本中の人たちが大変な思いをしている時に、のんびりと旅行していることを申し訳なく思ったことを今でも覚えている。

そんな生活が、このコロナの騒ぎが起こるまで続いた。

今、振り返って見ると、行動できる間に飛び回っておいて良かったと思う。懐は寂しくなったが、体力も衰えはじめ身体がいう事をきかなくなりつつあるのを考えると、尚更その思いが強くなる。